

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2014年12月1日
(No. 76・急に選挙しわす号)

2014
*
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：青木明雄

志木につらなる川の風景 (4)

金山調節池

清瀬市にある金山調節池は、柳瀬川の改修工事の一環として平成6年に整備されました。周囲1.1kmで、柳瀬川とは護岸で仕切られていて、河川が増水すると調節池に入る越流堤となっています。

ここには、湧水を利用した観賞池があり、小さな島が浮かんでいます。また多くの種類の木が植えられていて、野鳥も多く、いつ訪れても大勢のカメラマンがいる所です。

(青木明雄)

カヤの迷路に何があるかな？



矢投げコーナーで楽しむ子どもたち

SAVEJAPAN プロジェクト「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」の2回目は、「カヤの迷路に何があるかな？」と題して、参加者53人で11月2日(日)に行ないました。前日は、夜にかけてかなりの雨が降っていて心配しましたが、当日はとてもいい天気になりました。

今回は、3つのコーナーを3班に分かれて、同時に3か所から回るといふものです。

迷路は、以前から河川敷等の草薮に作って子供たちに遊んでもらいたかった企画です。ヨシ・オギ群落保全地中央の階段を下りて進むと入口があり、そこから富士下橋側へと迷路ができています。意外と長い迷路ができました。中には迷い道を何ヶ所か仕掛けてあります。迷ってくれたかな？カヤが覆いかぶさるトンネルの道もあります。大人の背の高さ以上もある迷路の中をうまく通り抜けるとゴールの広場に着きます。ここに市内の生き物の標本をカップに入れたお宝が隠してあります。じゃんけん大会もあり、勝者3名は、カヤネズミ人形がカヤに包まれて



柳瀬川の魚の水槽は大人気

入っている「河童のつづら」がもらえます。

次に虫とりのコーナーですが、当初の予定は、10月5日でしたので、沢山の虫が期待できましたが、もう大分少なくなっていました。それでも子供たちは虫とり網と虫かごを手に持ち、土手の周りで秋の虫を捕まえていました。土手においた柳瀬川の魚の入った水槽もみんなで覗き込んでいました。移動水族館はいつも人気があります。

私が担当した草遊び(矢投げ)のコーナーでは、ヨシとオギを使った矢で矢投げを行ないました。あらかじめ用意したオギやヨシで矢を2本作ってもらいました。葉っぱを何枚か残したり花穂を残したり、自由に作ってもらいました。矢の先端は危ないので、軍手の指を切ったものを被せて輪ゴムでとめて完成です。この先端に付けたものが、矢の重みとなり良く飛ばすことができます。投げてみると、すぐ手前に落ちてしまったり、高く飛ばしすぎてしまったり、なぜか真っ直ぐ飛ばずにそってしまったりとなかなかうまくいかないものです。一通りの練習が終わったところで、的当てゲームの開始です。見事、的に当たった人は、缶バッチが貰えます。投げる位置は自由なので、結果的に、全員貰う事ができました。最後にクイズで楽しんだり、マシュマロバーベキューを楽しんで解散となりました。

15名のスタッフの皆さん、ありがとうございました。(青木明雄)



迷路コーナー制作中です

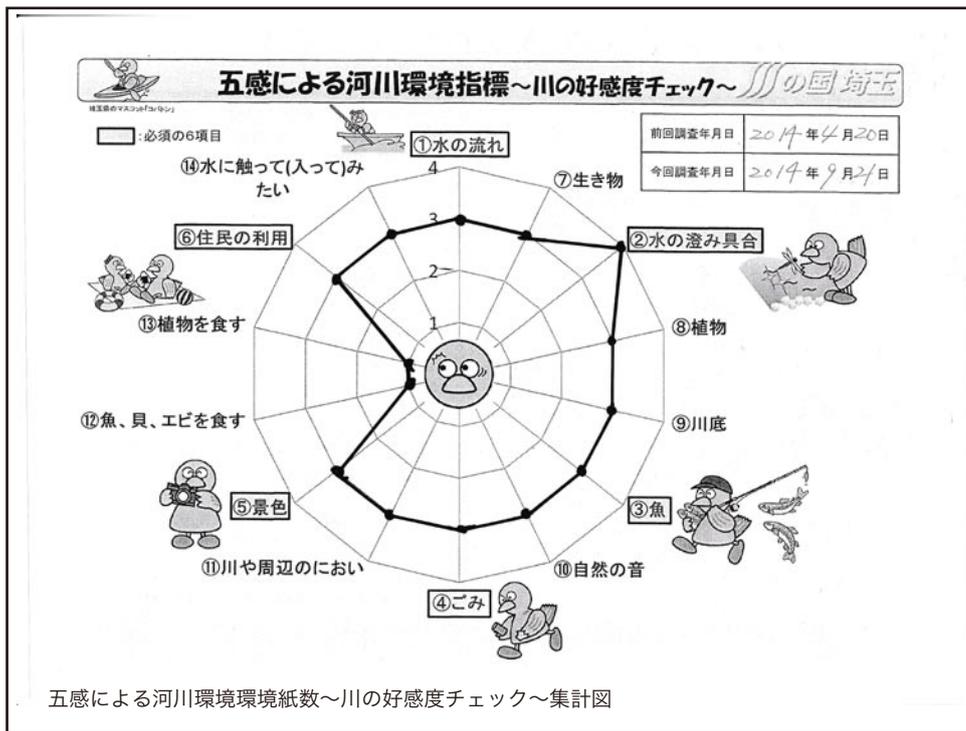
9月21日（日）志木の自然観察会（秋）

五感で感じる川のまち志木

いろは親水公園での「自然観察会」は春に続いて2回目となります。9月21日は晴天に恵まれ、多くの方に参加していただきました。なお今回、秋の観察会は、川をより身近で観察するため前回とは逆のコースで観察しました。

順路は旧村山快哉堂を出発し、柳瀬川・新河岸川の合流点を見た後、いろは橋を渡り、三時代の堤防を見て、ヨシ・オギ群落地では外来植物の駆除、カヤネズミの生息地観察などの説明を受けました。次に大量降雨の排水対策としての「郷土樋管」を見て、富士下橋に戻りました。ここで新河岸川の増水水位設備を観察し、新河岸川を見ながら「こもれびのこみち」へ進んで、湧水地と斜面林保全活動の説明を受けました。最後に「五感による河川環境指標」一川の好感度チェッカーの記入を全員で行い閉会となりました。

いろは親水公園は柳瀬川・新河岸川の合流点にあります。志木市の中でも多くの自然と歴史が残る地域と言えるでしょう。ヨシ・オギ群落におおわれた自然ゾーンでは、昨年カヤネズミの巣



五感による河川環境環境紙数～川の好感度チェック～集計図

を見つけることができました。カヤネズミは体重10g以下の最小のネズミですが、ヨシ・オギの茎の中間くらいに葉で作ったボール状の巣を作ります。希少動物として貴重です。また、この地の歴史は野火止用水や江戸時代からの川の氾濫の歴史が堤防や防排水施設に残されています。重ねて新河岸川の舟運による昔の志木市の繁栄の歴史も見逃せません。

添付の図は記入いただいた五感チェックの結果をレーダーチャートとしたものですが、川の好感度の指標として毎年続けて実施しています。

(加藤健二)



昭和時代の堤防で説明を聞く



最後に五感チェックをおこなって解散しました

10月17日(金)～19日(日) 第12回いろはふれあい祭り

「志木で見つけた自然の落とし物」などを展示

いろはふれあい祭りが志木小学校・いろは遊学館・いろは遊学図書館を会場におこなわれ、当会は「活動パネル展示」や「柳瀬川水族館」「志木で見つけた落とし物展示」「ドングリ工作体験コーナー」で参加しました。

1日目は、志木小学校児童だけの展示見学があり、午前中に当会が協力した志木小5年生対象の柳瀬川での総合学習で、みんなで獲ったドジョウやギンブナ・テナガエビなどを展示した「柳瀬川水族館」には、特に興味を示してくれていました。

2日目と3日目は一般参加で、お天気もよく各催し物コーナーは大勢の来場者で賑わっていました。子ども達の参加が多く、当会のコーナーは特に両日とも次から次へと訪れてくれました。

「志木で見つけた落とし物展示」には、今年はジャコウアゲハの幼虫が展示され、また、綺麗な光沢を放つタマムシを見た高齢の方は「私は、長年筆筒の中にしまっているわ!」と自分も大事に



写真・毛利将範

保管していることを話されていました。

ドングリ工作体験コーナーでは、幼児が手を絵の具で染めながらドングリや松ぼっくりに綺麗に色づけをして、自分の作品に満足して大事そうに持って帰っていました。

今年は当会の展示品も多く、搬入を含めて連続4日間、天田代表をはじめ協力された会員の皆さま、本当にお疲れ様でした。(山口美智江)

10月13日(月・祝)

つむじいちょう

辻 銀杏で街あわせ



志木ニュータウンペあもーる商店街で、空き店舗等を利用して開催された「第6回辻銀杏で街あわせ」に参加しました。「つむじいちょう」とはペあもーる商店街中央の大イチョウのこと。館地区の6名の市民のグループ「たてのよこいと」が企画・主催し、ペあもーる商店会と共催で毎年行われています。去年は遊学館ふれあい祭りと重な

り参加できませんでしたが、当会は第1回から参加してきました。

今年も「身近な自然の小さな博物館」としての展示を行いました。昆虫をそのまま乾燥させただけの簡易な標本・蛹や繭の抜け殻・ミノムシの糞・アシナガバチの巣・トックリバチやスズバチの巣・寄生バチの繭・虫こぶ・ヘビの抜け殻・カタツムリの殻・鳥の巣・モズのはやにえ・カヤネズミの巣・コウモリの標本・・・等、志木の自然の中で見つけた自然の痕跡を展示しました。また、柳瀬川の土手から連れてきたジャコウアゲハの幼虫や柳瀬川の魚も展示しました。

当会の他には、東北支援の地酒試飲会、手作り品の販売、フリーマーケット、売るのも買うのも子どもたちだけの「子どもフリマ・こども縁日」、ミニライブ、等々。天気が悪かったにもかかわらず多くの見学者で賑わっていました。

(天田 眞)

毎月第3日曜日

柳瀬川生き物ウォッチング

エコシティ志木では2009～13年度に埼玉県みどり自然課の事業『県民参加生き物モニタリング調査』に参加してきました。この調査は、県内の自然環境団体（30数団体）が日頃の活動フィールドから対象地域を定め、月1回、指定された動物40種・植物50種について必要項目を調査するもので、これを集計することで県内の生物多様性の変化を把握し、様々な生き物情報を共有化する仕組みを構築することを目的としています。当会では、「柳瀬川野鳥&川の生き物ウォッチング」や「里山の手入れ作業」にあわせて調査を行ってきました。

当初予定の5か年は終了しましたが、今年度からは、一定のルートを移動しながら調査する方法（生き物ラインリサーチ）で2か年計画の調査が始まりました。当会ではこれに対応し、従来から第3日曜日に行ってきた定例調査を「柳瀬川生き物ウォッチング」と改編し、①柳瀬川右岸高水敷



柳瀬川高水敷の掘削工事（1～2月）跡に大量に発生したブタクサ（7月20日）

の富士見橋から下流へカッパ像のところまで、②水谷田んぼのあぜ道と大排水沿いの道、の2ルートについて調査しています。調査対象は県から指定されるものでなく、各ルートに付き植物20種以上（生活段階・拡がり）、動物15種以上（種類・数）を調査することとなっています。

（天田 眞）

総合学習

小学校の総合学習のお手伝いをしました



10月3日志木三小3年生 4学級 97名

10月17日志木小5年生 3学級 114名

10月29日宗岡三小5年生 2学級 55名

（宗岡三小は7月に続き2回目になります）

学習の内容は、川と陸のグループに分かれ、川では柳瀬川が狭山湖の所に源を発し、新河岸川を経て隅田川になって海にそそぐこと、従って柳瀬

川は海と繋がっており、ハゼやボラ、アユなどが見られることを理解しました。

実際に川に入って、手網で魚を捕る体験に子供たちは生き生きとしていました。当日捕れる魚類は、ウキゴリ、ヌマチチブ、ギンブナ、ヌマエビやとんぼのヤゴなどです。

陸のグループは、最初に「生態系ピラミッド」「食物連鎖」「自然界にゴミはない」という三つのキーワードについて説明を受け、豊かな自然というのは、いろいろな環境にいろいろな多様な動植物がいる状態であることを理解しました。バッタを追いかけたり、カエルを捕まえたり、普段は経験できないことに、子供たちは教室とは違った表情を見せていました。

総合学習を通して、四季の自然をより深く理解し大切にしよう成長することを願っています。

（山崎光久）

志木で繁殖する 都会派鳥たち

NPO法人エコシティ志木理事

毛利将範



① ツバメの幼鳥

巣立ち後、柳瀬川沿いのヨシ原に移動して親鳥がエサを運んでくるのを待つ幼鳥たち。ツバメの繁殖には、秋に南方へ旅立つまで集団で過ごすための広いヨシ原が必要です

最近、通勤途中の路上や駐車場でハクセキレイをよく見かけます。アスファルトの色にとけ込んで、人が近づいても騒ぎ立てないので通行人もその存在をあまり気にしないようですが、ハクセキレイはここ2、30年で確実に生息圏を拡げ、街の中に進出してきています。

このように、私たちの身近にいる鳥、今回はとくに志木市内で繁殖（子育て）する鳥たちを紹介します。

志木市内で記録されている鳥は、『埼玉県動物誌』（1978）と『志木市自然環境調査』（1995）の文献記録と当会での観察記録（1997～現在）を併せると130種になります。そのうち春から夏に見られる鳥たちが基本的に繁殖しているということになりますが、通過しただけと思われるカッコウや市内での繁殖場所が特定できていないサギの仲間・ワシタカの仲間・ウグイスなどを除くと25種ほどが市内のどこかで繁殖しています。

子育てが間近で見られる鳥といえば**ツバメ**（①）。人家の軒先や柳瀬川駅の構内、一時期スーパー「サミット」の中に巣作りもしていましたが今はどうなのでしょう。カラスなどの外敵を避けるためにあえて人の近くに巣を架けると言われています。とはいえ、巣作りに適した人家があればツバメが増えるかというところでもなく、繁殖のためには巣材の泥や枯れ草があること、エサの

羽虫が大量に捕れること、そして巣立ったヒナが集まれる広いヨシ原などの自然環境があることが必須です。

都会派の鳥といえども、その繁殖のためには生活のバックボーンとなる自然環境が必要なのです。

都市化したとはいえ志木には、荒川堤外や隣接する富士見市の水谷田んぼなどまとまった水田と荒川・新河岸川・柳瀬川と3本の川があり、都市部としては比較的豊かな「水辺環境」がありあます。また、「林（里山）環境」として、西原ふれあい第三公園といろは親水公園内にややまとまった斜面林と点在する屋敷林・寺社林が小規模ですがあります。そして畑などの農地や公園・河川敷などに少しですが「草原環境」もあります。それらの環境ごとに、そこをバックボーンとして繁殖する鳥たちを以下に分類してみました。

1. 水辺環境に繁殖する鳥たち

水辺環境に依存して繁殖する前述のツバメ・ハクセキレイ（②）、そしてセグロセキレイ・イワツバメ・カルガモ（③）などは比較的かんたんに見ることができます。カワセミ（④土の崖に巣穴

を掘る)・コチドリ(川原や砂利がある場所)・イカルチドリ(川原等)は人目を避けておもに河川域とその周辺だけで繁殖します。オオヨシキリ(5)やセッカは川岸や河川敷のヨシ原などを利用します。

2. 林(里山)環境に繁殖する鳥たち

キジバト(街路樹や庭木でも繁殖)やシジュウカラ(巣箱も利用)・オナガ(屋敷林などの高木)・ヒヨドリ・コゲラ(枯れた立木に巣穴を掘る)・メジロ・エナガ(6)・ハシブトガラス・ハシボソガラスなどがおもに林環境を利用しています。

3. 草原・畑地環境に繁殖する鳥たち

草地の代表はヒバリですが、草地の減少とともに減少傾向です。ムクドリはマンションや人家の隙間に営巣し、巣立ったあとは河川敷や農地の草地でエサを獲り、夜は駅前の街路樹などを集団ねぐらにします。モズやカワラヒワは、人家近くの畑や街路樹に隣接する疎林の低木などに巣をかけます。キジは、荒川堤外の水を抜いた田んぼで営巣した例もありますが、水谷田んぼの草地や藪などで繁殖しています。

以上、試みに環境ごとに分けてみましたが、狭

い志木ですので、鳥たちは様々な環境を行き来しながら、人の暮らしに寄り添って、あるいは人目を避けて繁殖しています。

残念ながら人目を避ける系の鳥たちは少数派です。バンやカイツブリも以前は繁殖したこともありますが今は確認できていません。

ところで、人に寄り添って系の代表であるスズメ(7)はどの環境に分類したらいいのでしょうか。巣は人家や電柱・橋・街灯など構造物の隙間につくり、人家のない山野には生息していません。畑や水田・川原などで植物の種子(稲も!)や昆虫などをエサとし、ヨシ原や竹藪・街路樹などをねぐらとして利用します。そんなスズメもこの20年で半減しているというデータがあります。どこにでもいるはずの種がいつの間にか減っている。それは、私たちの身の回りの何かが減っているか変わってきていることの現れなのでしょう。

身近に川や公園や農地・林・草地があつて都会派の鳥たちが今後も暮らし続けられる。そして、「あれ、こんな鳥もいたのか!」という発見や驚きがたまにある。そんな場所は私たち都会人、とりわけ将来を担う子どもたちにとっても心地よく暮らしに適した環境であるような気がします。



2 ハクセキレイ
都市環境にもうまく適応しながら生息域を拡大しています



3 カルガモの親子
志木小の屋上ビオトープで繁殖したこともあり、巣立ち後、親子で水辺に引っ越します



4 カワセミ
クチバシを泥だらけにして、土の崖に巣を建築中。自然の崖は貴重です



5 オオヨシキリの巣
いるは親水公園内のヨシの茎に作られた2個のうちの一つ



6 エナガの幼鳥
2014年に西原で繁殖が確認できました。里山のような手入れされた落葉広葉樹林を好みます



7 スズメ
人間のごく近くで暮らしながら警戒も怠りません。が、この頃少し馴れ馴れしいのも

11月1日(土)～3日(月)第44回「志木市民文化祭」

『木の実工作の魔法』

11月1日～3日、いろは遊学館と志木市民会館において第44回『志木市民文化祭』(主催:志木市民文化祭実行委員会)が開催され、多くの方が文化・芸術の秋を満喫されていました。

当会は志木小学校の図工室をお借りし『木の実工作』を行いました。ドングリ(クヌギ・マテバシイ・スダジイ・トチの実など)や松笠・葉っぱは一つひとつ色も表情も違い、温もりを感じます。自分で選んだ物に色付けや工作をして貰いました。カラフルな松笠ツリー・可愛い顔を描かれたドングリ達で机がいっぱいになりました。

ちょっとドキドキ…ノコギリ体験も出来ました。スタッフに使い方を教わりながら一所懸命にノコを引き、長い竹を工作材料に変えました。竹とドングリの首飾り・剣や縦笛など力作を作り上げ、どの子も本当に嬉しそうでした。

「工作は家ではなかなかさせてあげられなくて…」とお母さん達がおっしゃいます。今回は広い空間を使えたので、親子で、またおじいちゃ



写真・加藤健二

んおばあちゃんと一緒に思う存分工作して頂けたのではないのでしょうか。絵の具やボンドが乾くまでの間も、フック付きのドングリを釣り上げる『団栗釣りコーナー』で盛り上がっていました。

木の実工作が参加者とスタッフ全員に幸せをくれた、秋の2日間でした。(大田文佳)

「野火止用水ぶらり散歩」が始まります



2回目に歩く小平市の公園内の野火止用水

エコシティ志木では昨年度まで「新河岸川ぶらり散歩」として、新河岸川上流に連なる入間第二用水の入間川笹井堰(入間市)から、新河岸川下流の隅田川吾妻橋(浅草)まで、6年間8回にわたり歩いてきました。今年からは2年かけて、野火止用水と本流の玉川上水羽村取水堰まで4回にわたり歩く予定です。

第1回 志木～清瀬 14年11月30日

第2回 清瀬～玉川上水 15年3月15日

第3・4回 玉川上水～羽村堰 期日未定

1回目の清瀬駅から下流の部分は分水路が多数ありますが、一般には本流以外はあまり知られていません。本流の川越街道から上流は下水処理水が流れていて、それより下流は遊歩道になっています。新旧川越街道の間は遊歩道に沿って水路がつけられています。これは一旦埋められた水路の跡に12年に親水水路として造られたものです。今回は志木駅から旧川越街道までは朝霞寄りの分水跡を、その上流は本流に沿って歩き、清瀬駅近くでは住宅街の中の分水跡を歩きます。

2回目は清瀬・東久留米・東村山・小平・東大和の各市を通り、玉川上水からの分岐点まで歩きます。(天田 眞)

- ① **カントン** → 9月 18日(木) 午後 3:30ごろ 富士見橋を渡って、柳瀬川左岸の土手のアレチウリの葉の上で[山崎光久]
- ② **コガモ**(4) → 9月 23日(火・祝) 冬鳥の渡り第1弾、コガモが4羽、柳瀬川の志木の杜マンション前[山崎光久]
- ③ **カントン**(鳴き声) → 9月初めころから、西原斜面林近くの東上線脇の草むら(クズの生えているところ)で鳴いていたが、10月9日の草刈でいなくなる[天田眞]
- ④ **ジャコウアゲハ**(幼虫 24、卵数個) → 10月 9日～ 15日 柳瀬川の堤防から草刈に先立ち救出し、自宅及び西原第三公園のウマノズクサに放す[天田眞]
- ⑤ **エナガ**(約 20羽) → 10月 25日(土) 西原ふれあい第3公園で[青木明雄]
- ⑥ **タゲリ**(約 35羽) → 11月 9日(日) 荒川堤外の水田で[毛利将範]
- ⑦ **モズのはやにえ**(1) → 11月 14日(金) 柏町2丁目のHさん宅[山崎光久]
- ⑧ **ムモンホソアシナガバチ**(巣と成虫が多いときは約 40) → 夏に西原斜面林で巣を見つけ観察していたが、11月 20日頃に寒さで死滅[天田眞]



① カントン [山崎光久]



② コガモ [山崎光久]



⑧ ムモンホソアシナガバチ[天田]



⑦ モズのはやにえ [山崎光久]



⑥ タゲリ [毛利将範]



⑤ エナガ [青木明雄]



④ ジャコウアゲハ [天田眞]

環境 ひとくちメモ (34) 伊藤 智明

「鳥インフルエンザウイルス」

今年 11 月に鳥取県、東京都、千葉県で野鳥や野鳥の糞便から鳥インフルエンザウイルスが検出されています。海外の鳥インフルエンザウイルス流行地では、鳥類やその死体等に濃厚に接触したことにより、人に感染した事例が確認されています。野生の鳥は、インフルエンザウイルス以外にも人に病気を起こす病原体を持っている可能性があるのでご注意ください。

環境省では「野鳥との接し方について」で以下の注意喚起を行っています。

●死亡した野鳥など野生動物は、素手で触らないでください。また、同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡していたら、お近くの都道府県や市町村役場にご連絡ください。

●日常生活において野鳥など野生動物の排泄物等に触れた後には、手洗いとうがいをしていただければ、過度に心配する必要はありません。

●野鳥の糞が靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザウイルスが他の地域へ運ばれるおそれがありますので、野鳥に近づきすぎないようにしてください。特に、靴で糞を踏まないよう十分注意して、必要に応じて消毒を行ってください。

●不必要に野鳥を追い立てたり、つかまえようとするのは避けてください。

●鳥インフルエンザウイルスは、野鳥観察など通常の接し方では、ヒトに感染しないと考えられています正しい情報に基づいた、冷静な行動をお願いいたします

出典：厚生労働省 報道発表資料 平成 26 年 11 月 21 日
 「国内の野鳥の糞便から鳥インフルエンザウイルスが確認されました」
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000066097.html>
 環境省「野鳥との接し方について」
http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/20101204.pdf

☆会員状況

2014年度更新済み（11月20日現在）

正会員(個人) 43

正会員(団体) 2

賛助会員(個人) 2 (団体) 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度も継続更新をよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川広域景観づくり連絡会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

埼玉県生態系保護協会志木支部

志木のまち案内人の会

志木市放課後子ども教室りんくす

グループぼんぼこ

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

秋の柳瀬川で魚とり

「寺子屋自然観察クラブ」



写真・青木明雄

11月1日(土)、朝、小雨が降っていたが、板橋区立高島第六小学校「寺子屋自然観察クラブ」の仲間9名が、魚を捕まいたいという元気力で雨を吹き飛ばし止んでしまった。

10時ごろ柳瀬川にこわごわ入り、エビや魚が取れはじめると、衣服の濡れも気にしなく夢中になっていた。ウキゴリ、ヌマチチブなど10種類の魚類が取れ、水槽に手を入れて感触を楽しんでいた。魚取りを満喫して楽しそうだった。（武本千左夫）

志木の杜「ユメマチサロン」に 柳瀬川の魚が



柳瀬川に面した旧ワイス跡地の大型マンション「志木の杜」では、来年春の竣工に向け最後の棟の工事が進んでいます。志木駅前の販売センター「ユメマチサロン」では、大型の水槽を常設し柳瀬川に生息するオイカワ・タモロコ・ギンブナ・モツゴ・ウキゴリ・テナガエビ等を展示しています。柳瀬川の自然の良さを知ってもらいたいとの当会の考えにも合うことなので、当会で水槽の管理を引き受けています。夏にはより多くの魚を展示した出前水族館や志木の昆虫等の展示も行いました。（天田 眞）

タテハチョウ科で花の蜜を吸うものには、前回取り上げたヒメアカタテハの他にマメ科が食草のコミスジがいます。翅を開いて止まるときに4枚の翅の白い紋が真っ直ぐな3本筋になります。この科にはヒョウモンチョウの仲間も含まれますが、以前「温暖化でやってきた昆虫」として取り上げたツマグロヒョウモンがよく見られます。

ジャノメチョウ科は茶色の翅に目玉模様があるのが特徴ですが、目玉の数や配置は種によって異なります。食草はササやイネ科等で、前回サトキマダラヒカゲを取り上げましたが、他には小型で花の蜜を吸うヒメウラナミジャノメや腐った果物等を吸うヒメジャノメはよく見かけます。

最もよく見かける蝶はシロチョウ科のモンシロチョウでしょう。キャベツを作っていると毎日卵を産みつけられます。鮮やかな黄色でよく

目立つキチョウも同じ科でマメ科が食草です。これらは春から秋に5回位発生しますが、同じシロチョウ科でも春に1回だけ出現するツマキチョウはアブラナ科が食草で、夏から冬を蛹で過ごします。

イネ科の草等が主な食草のセセリチョウ科ではイチモンジセセリが多く、チャバネセセリやキマダラセセリも見られます。この科は翅を閉じたり半開きで止まるものが多いのですが、ヤマノイモが食草のダイミョウセセリは翅を開いて止まります。

シジミチョウ科では、カタバミが食草のヤマトシジミが多く、川で多いのはギシギシが食草のベニシジミです。鮮やかな青色のムラサキシジミの食草は硬いカシの葉です。この科では翅の表裏の色・模様が違うのが普通ですが、マメ科が食草のウラギンシジミは翅の裏が銀色一色です。



コミスジ



ヒメジャノメ



ヒメウラナミジャノメ



ツマキチョウ



イチモンジセセリ



ダイミョウセセリ



ヤマトシジミ



ベニシジミ



ムラサキシジミ



地球と日本の自然 (15)

旧石器時代 — 群馬県岩宿遺跡

加藤 健二

前号は、縄文時代から古墳時代で榛名山の噴火により一瞬にして埋もれてしまった兵士の群馬県金井東裏遺跡の話題を取り上げました。その後、木曾御嶽山の突然の噴火があり、現実する自然のすさまじさを目の当たりにしてしまいました。

さて、縄文時代は今から三千年から一万四千年前の時代を示しますが、長い間日本には、縄文時代より前にはヒトは住んでいないと言われていました。今号では旧石器時代について、苦勞の末石器を発見した群馬県の岩宿遺跡に触れていきます。

場所は群馬県ですが、関東ローム層の酸性土壌では人々の生活に使われた道具や住居などが残らないことから、縄文時代以前には人が住んでいなかったというのが定説でした。戦後間もない1946年に群馬県みどり市岩宿において人が加工した石器が発見されて、縄文時代を二万年もさかのぼる人々の生活の存在が明らかとなったのです。発見されたのは、いわゆる「石」なのですが、人が作ったと言えるのは、自然のままではない形状とその鋭利な刃先状態で判断されました。

この発見は歴史学上の大発見のひとつに上げられています。相沢忠洋さん(1926-1989)という考古学の好きな青年が、桐生に住み商品の行商をしながら各地を回り、ついに貴重な発見に至ったものです。この発見後は日本の各地で石器の発



掘調査の機運が盛り上がり、現在では多くの遺跡が発見されています。

さて、発見された石器の大半は黒曜石ですが、この黒曜石は長野県や北海道などの限られた地域でのみ産出されるものです。それが群馬県で見つかることは、当時においても人々の移動・交流があったことを示しています。さらに日本各地で発見が続き、個々の交流だけでなく、黒曜石の集積地と思われる場所も発見され、流通の形態があったと推測されます。黒曜石の流通があれば、当然他の商品の交換も考えられ、広い人々の交流があったと思います。

時代が進み石器の形態も細かいカットや磨いた磨製石器、さらに骨や木に鋭利な石器を組み合わせて、槍・弓に加工したものが現れました。これらを使って人々は鹿やナウマンゾウなど大型動物の狩猟や、より鋭利な石器を使い動物の皮で衣類を作り、住居の屋根、料理などに石器を活用していたようです。写真は群馬県岩宿博物館に展示されている種々の石器ですが参考としてください。

編集後記

◇本誌2ページに報告されているように、今年始めて取り組んだ「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」はおかげさまで2回とも大成功で終わりました。継続して保全活動が続けていければと思っています。◇来年は当会創立20周年。節目の企画を思案中です。よいアイデアがありましたらご提案ください。(梟)

エコシティ志木通信

第76号 2014年12月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com



エコシティ志木
の

イベントカレンダー

だれでも
参加できるよ!



2014年

2015年

12月→3月



「新河岸川ぶらり散歩」(3月21日)のようす <写真:青木明雄>

親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

会員募集中



■年会費■

正会員 個人 2,400円 団体 5,000円
賛助会員 1口 5,000円

■入会方法■ 郵便振替等で年会費を納入してください
<振替番号>00510-4-13225 <加入者名>エコシティ志木

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、申込不要・参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月メール及びハガキ等で、別途行事案内をしています。



■ボランティア活動に参加しよう

◆斜面林の手入れ（場所は市内の2か所です）

- 【時間】9時30分～11時30分（雨天中止）
- 【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）
あれば剪定用ハサミ・ノコギリ
- 【主催】NPO法人エコシティ志木
- 【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部&志木市都市計画課



<西原ふれあい第3公園>

- 【日程】12月13日（土）・27日（土）/1月10日（土）・24日（土）
2月7日（土）・28日（土）/3月8日（日）・28日（土）
- 【集合】9時30分に東上線側入り口の坂を登ったところ
- 【内容】公園の清掃・下草刈り・保全等の作業を行います。

<いろは親水公園>

- 【日程】12月28日（日）/1月25日（日）
2月22日（日）/3月22日（日）
- 【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天中止）
- 【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋
- 【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、
ごみ拾い・下草刈り等の作業を行います。



■調べてみよう

◆柳瀬川生き物ウォッチング<原則毎月第三日曜日>

- 【日程】12月21日（日）/1月18日（日）/2月15日（日）3月14日（土）
- 【時間】いずれも9時～12時（雨天中止）
- 【集合】9時に富士見橋右岸の花壇のあるところ
- 【内容】※途中、志木中前で河原のゴミ拾いをします。
柳瀬川と水谷田んぼの約4kmを歩き、
動物・植物の調査を行います。
- 【持物】双眼鏡、あれば図鑑
- 【費用】200円（会員・中学生以下は無料）※家族は全員で1名扱い



【主催】NPO 法人エコシティ志木 & 埼玉県生態系保護協会志木支部

◆埼玉県内一斉ガンカモ調査

【日時】1月11日(日) (雨天の際は12日(月・祝)に延期)

【集合】9時志木大橋のたもと(下流の右岸側テニスコート裏)

【内容】志木大橋から柳瀬川・新河岸川合流点まで散策しながら調査します。新河岸川との合流地点にて解散。

【持物】双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑

【費用】無料

【備考】種類が分からなくても、参加できますので、ご心配なく。

【主催】埼玉県生態系保護協会志木支部

【協力】NPO 法人エコシティ志木



■自然と文化を楽しもう

◆冬の野鳥観察会

【日時】2月1日(日) 9時~11時(雨天中止)

【集合】9時に東武東上線「柳瀬川駅」サミット前の円形広場

【解散】市役所手前

【持物】双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑

【費用】200円/家族(会員・中学生以下無料)

【主催】NPO 法人エコシティ志木 & 埼玉県生態系保護協会志木支部

【後援】志木市教育委員会生涯学習課



◆野火止用水跡ぶらり散歩 ~清瀬から玉川上水へ~

【日時】3月15日(日) 9時~15時30頃 (雨天時は中止)

【集合】以下の2か所(どちらでも構いません)

- 志木駅南口バス乗り場に8時10分

8時18分発 清瀬駅北口行 西武バス(8時50分清瀬駅北口着)

- 清瀬駅北口階段下に9時

【内容】野火止用水に沿って清瀬から玉川上水の分岐点まで歩きます

【持物】お弁当、飲み物、レジャーシート、歩きやすい服装

【費用】300円/人(会員100円/人、中学生以下は無料)

【主催】NPO 法人エコシティ志木



◆8月◆

- 23日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 24日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
- 26日(火) 志木市内 NPO 法人連絡会
- 26日(火) エコシティ志木通信印刷発行作業
- 31日(日) 柳瀬川外来植物駆除作業

◆9月◆

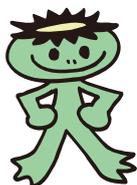
- 6日(土) ユメマチサロン「柳瀬川ネイチャースクール」
- 14日(日) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 15日(月) 柳瀬川生き物ウォッチング
- 15日(月) カヤネズミ原っぱ迷路づくり作業
- 16日(火) エコシティ志木定例運営会議
- 21日(日) 志木の自然観察「五感で感じる川のまち志木」
- 21日(日) カヤネズミ原っぱ迷路づくり作業
- 22日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 23日(火) カヤネズミ原っぱ迷路づくり作業
- 27日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 28日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業

◆10月◆

- 3日(金) 志木第三小学校3年柳瀬川総合学習
- 11日(土) 柳瀬川生き物ウォッチング
- 12日(日) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 13日(月) べあもー商店街「辻銀杏で街あわせ」出展
- 17日(金) 志木小学校5年柳瀬川総合学習
- 17日(金) いろは遊学館ふれあい祭り志木小児童見学
- 18日(土) いろは遊学館ふれあい祭り出展
- 19日(日) いろは遊学館ふれあい祭り出展
- 21日(火) エコシティ志木定例運営会議
- 24日(金) 埼玉県生き物モニタリング調査中間発表会
- 24日(金) エコシティ志木広報部会
- 25日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 26日(日) いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
- 26日(日) カヤネズミ原っぱ迷路づくり作業
- 27日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 29日(水) 宗岡第三小学校5年柳瀬川総合学習

◆11月◆

- 1日(土) 高島第六小学校土曜寺子屋(柳瀬川魚捕り)
- 2日(日) SAVE JAPAN「カヤネズミ原っぱで迷路遊び」
- 2日(日) 志木市民文化祭体験学習「木の実工作」
- 3日(月) 志木市民文化祭体験学習「木の実工作」
- 4日(火) SAVE JAPAN プロジェクト報告会
- 8日(土) 西原ふれあい第三公園定例作業
- 9日(日) 志木市民まつり(コミュニティ協議会出展協力)
- 15日(土) 朝霞県土整備事務所 秋の黒目川まつり展示
- 16日(日) 柳瀬川生き物ウォッチング
- 17日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 18日(火) エコシティ志木定例運営会議



NPO法人 エコシティ志木

冬の斜面林手入れに参加しよう

これからの時期は、夏の間、涼しい木陰を作っていた沢山の葉っぱが、木枯らしが吹く度にどっさりと落ちてきます。そして、寒い冬には、太陽の日が地面まであたり、林の中も温まります。落葉樹は森林をやさしく守ってくれる大切な木なのです。これからの落ち葉は、遊歩道や、斜面林の中にも厚く積もってしまいます。



雨の日の、落葉の積もった階段などを歩くと滑りやすく、とても危険です。遊歩道や広場の落ち葉を熊手や竹箒でかき集めて取り除いてやりましょう。また、林の中の落ち葉も、あまり厚く覆い尽くすと、春の野草も芽を出しにくくなります。

野草の生えてない落ち葉の積もったままの林は、ちょっとさびしいですね。

少し掻き出してやると、地面も暖まり、春には野草も芽を出してくれます。

自分たちの手で美しい斜面林を整備して、野草をたくさん咲かせましょう。

(青木明雄)

みなさんの参加をお待ちしています!